



「親と子の論語塾」開校式

平成二十一年八月一日午前二〇時、弘道館正庁で「親と子の論語塾」の開校式が仲田副会長の司会で行われました。

開校式には、茨城県知事橋本昌氏令夫人由美子様をはじめ、県水戸土木事務所長、県教育委員会教育委員長、同教育長、県立図書館長、水戸市長、水戸市総合教育研究所長、水戸商工会議所会頭、水戸観光協会会長、水戸東武館長、石州流水戸何陋会長、水戸青年会議所理事長など後援・協力団体の代表者、明治書院社長など多彩な来賓を迎えることができました。

久野勝弥理事による開式の辞と、和田会長の「親と子の論語塾」を開校する趣旨と経過を紹介するあいさつ（後掲）の後、来賓代表として二人からあいさつをいただきました。

弘道館管理者茨城県水戸土木事務所所長後藤和正氏は「弘道館は九代藩主徳川斉昭公が藩の学校として建てた。その後七男の慶喜公もここで論語を学んで、江戸時代から明治時代へ橋渡しをする大政奉還という大事な仕事をした。皆さんも一生懸命論語を勉強して世のためになる人になってください」と期待を述べられました。加藤浩一水戸市長は、「国の重要文

化財である弘道館で、先人たちと同じように子供が学べるのはうれしいことです。論語には親と子の関係、友達関係だとか素晴らしい言葉があります」と意義を強調されました。



次に、二年前から東京の自分の会社で安岡先生の論語を読む会を主催されている伴充弘本会論語委員会委員長が「先生のおじい様は安岡正篤先生とおっしゃいます。中国の古典の学問に深く御造詣を持ち、歴代の内閣総理大臣の先生役でもございました」と講師の紹介が行われました。



安岡定子先生は「楽しくやりたい。難しい事は何もないので、一時間すっきりした形で帰れるようにしたいと思えます。この教室には大勢の人が、力を合わせていただいている。皆がみんなのために支えてくださる。みんなが元気に楽しく三月まで過ごすことが恩返しです。どうぞよろしく」とあいさつされました。

その後、弘道館の使い方についての注意、と受講生の決まりの申し合わせがあった後、開校式を終了しました。

和田会長あいさつ

「親と子の論語塾」開校式にたくさんの方に来ていただきありがとうございます。

今から二千五百年前の中国に孔子という人がいた。その人の言葉がいまだに残

って学ばれています。弘道館は貴重な歴史施設ですが、若き日の十五代将軍徳川慶喜公が論語を学ばれた。



会では、偕楽園の梅林を日本一にしようと市民の皆様の賛同を得て苗木を育て、今年の春の植樹祭の折には、偕楽園の梅の品種が約四〇〇種類に到達しました。この事業のめどがつかまりました。次はこの弘道館を御使しまして、論語塾をするという新たな事業に取り掛かったわけです。

弘道館は天保十二年に建造、八月一日に仮オープンしたわけでありました。それを記念いたしました。一六八年後の本日八月一日、開校することは大きな意義があります。

梅は長い冬の中、春に先駆けて咲く。水戸のさきがけ精神もここからきているのかなという風に思います。また梅は「好文」と言いまして、文を好むと書くわけですが、中国ではそのように言っているそうです。学問を好むということでは、梅と弘道館と偕楽園とみな結びついている。

水戸藩が水戸徳川家によって四百年前にできまして、弘道館・偕楽園・梅を誇りにしている。この伝統をわれわれは発展させたいと思っているわけでありました。

論語を始めたいという気持ちが大勢であります。今我々の生きる道が混んとしているわけでありまして、論語を通じて、これからの生き方などを考えていきたい。楽しくどうぞ論語を読み、大きな声で素読をしていきたいと思いません。

